

# EU Indicators

## 欧州経済指標コメント：10月ドイツ消費者物価（確報）

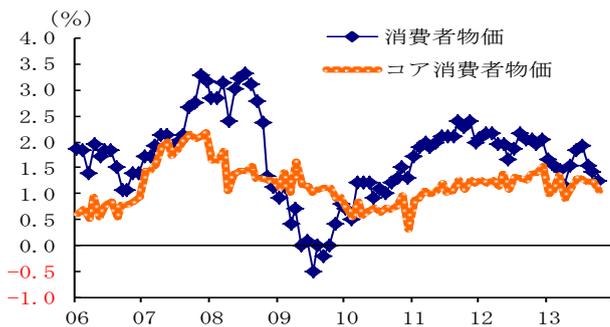
発表日：2013年11月12日（火）

～下振れ要因はあったが、全般的なデスインフレ基調を確認～

第一生命経済研究所 経済調査部  
 首席エコノミスト 田中 理  
 03-5221-4527

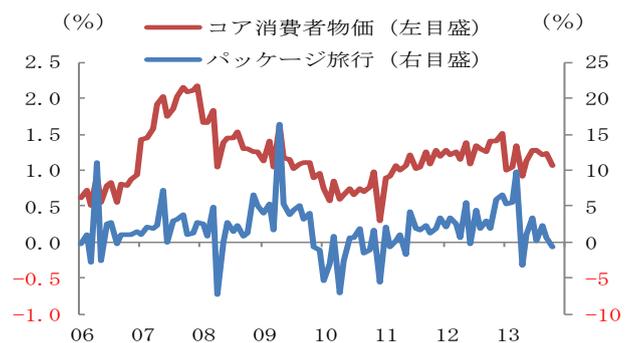
- 2013年10月のドイツの消費者物価の確報値は前年比+1.2%と速報値から不変、EU統一基準の確報値は同+1.2%と速報段階の同+1.3%から小幅下方修正された。これにより、前月からのインフレ率の変化幅は、独自基準が前月の同+1.4%から0.2%ポイント、EU統一基準が前月の同+1.6%から0.4%ポイント上昇率が縮小した。ECBのサプライズ利下げにつながったユーロ圏全体の物価計数の上昇率が縮小（前月：同+1.1%→今月：同+0.7%）した一因となっている（確報値は15日に発表）。
- 労働需給が逼迫気味のドイツですら物価上昇率が縮小したことには驚きもある。確報値で判明した費目別の内訳によると、エネルギー価格の下落率拡大（同▲0.3%→同▲0.6%）に加えて、コア物価の上昇率が縮小（同+1.2%→同+1.1%、左図）。コア物価の上昇率縮小の背景には、パッケージ旅行（同+0.7%→同▲0.6%）と教育費（同+3.0%→同▲1.1%）が下落に転じたことが効いている。
- このうちパッケージ旅行は月毎の振れが大きく、過去にもコア物価の攪乱要因となってきた（右図）。来月に再び元の上昇トレンドに復帰すれば、ドイツの物価上昇率を押し上げる要因となる。ただ、今回の下振れはそれほど大きくなく、落ち込み前のトレンドに復帰した場合も、消費者物価全体への押し上げ寄与は+0.1%ポイント未満にとどまろう。ユーロ圏全体の物価計数を大きく押し上げる要因にはならない。ユーロ圏の消費者物価は目先1%未満での推移が続くことが予想される。

■ ドイツの消費者物価（前年比）



注：コア物価は食料・タバコ・エネルギー除く  
 出所：ドイツ連邦統計局

■ ドイツのコア消費者物価（前年比）



出所：ドイツ連邦統計局

■ ドイツの消費者物価（%）

	2012				2013				2013					
	4Q	1Q	2Q	3Q	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月		
消費者物価（前期比）	0.4	0.4	0.4	0.5	0.0	0.1	0.3	0.1	0.3	0.0	0.1	-0.1		
消費者物価（前年比）	2.0	1.5	1.5	1.6	1.4	1.2	1.5	1.8	1.9	1.5	1.4	1.2		
コア消費者物価（前期比）	1.4	1.1	1.1	1.2	1.3	0.9	1.1	1.3	1.3	1.2	1.2	1.1		
コア消費者物価（前年比）	4.1	3.8	5.0	5.1	3.7	4.1	5.4	5.4	5.7	4.9	4.7	4.2		
食料品（前年比）	1.5	0.9	1.3	1.3	0.8	1.3	1.0	1.6	1.7	1.1	1.2	1.4		
アルコール（前年比）	3.0	2.3	1.1	3.8	1.4	1.3	0.9	0.9	3.6	3.9	3.9	4.1		
タバコ（前年比）	4.3	2.6	1.6	1.0	0.4	0.4	1.4	2.9	3.0	0.4	-0.3	-0.6		
エネルギー（前年比）	4.5	5.3	4.6	4.0	4.7	4.3	4.5	5.1	4.8	3.4	3.7	2.5		
住宅用燃料（前年比）	4.0	-2.0	-3.5	-3.8	-6.7	-6.0	-3.7	-0.8	-0.1	-4.5	-6.7	-5.8		
自動車燃料（前年比）														

注：消費者物価の前期比は季節調整後。コア消費者物価は食料・アルコール・タバコ・エネルギーを除く。  
 出所：ドイツ連邦統計局

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。